

国見町は、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」を進めています。このコーナーでは町や地域が行っている取り組みについて、毎月お伝えしています。

【企画調整課地域振興係 ☎ 585-2967】  
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



Vol.100

## 郡山女子大学プレゼンツ「国見たてもの探検」

9月23日に開催しました「第28回義経まつり」に合わせ、普段は入ることのできない奥山家住宅洋館の内部が一般公開され、町内外から440名の方が見学しました。今年は初めて郡山女子大学建築デザイン専攻・長田研究室の学生たちと教員による「建物ガイドツアー」や、これまで12年間にわたって国見町の建物調査を続けてきた研究成果をもとに、石蔵や木造住宅の見どころ、歴史に秘められたストーリーをわかりやすく紹介する展示、ワークショップを行い、楽しみながら学ぶ機会となりました。



郡山女子大学建築デザイン専攻の学生らによる奥山家住宅のガイドツアー



### 02 奥山家住宅 洋館

● 町のシンボルマーク洋館

1. 八角形の塔屋
2. 高い礎石や技巧的な石工
3. 本格的なルネサンス様式の意匠

● 開放的な空間設計

### ● 職人技が生きる和の趣

1. 縁起の良い意匠の数々
2. 回遊式庭園と主屋
3. 超高級木材の銘木が沢山

### ● 伝統が息づく、和の佇まい

1. 神社の建築様式を用いた格式高い玄関
2. 貴重な木目を活かした意匠
3. 貴重な伝統的木工

▲郡山女子大学建築デザイン専攻の学生が作成した奥山家住宅の解説パネル

### 国登録有形文化財「奥山家住宅」解説

大正10年(1921)に建てられた奥山家住宅は、和風建築と洋風建築を並列的に配置した住宅様式(和洋並列型住宅)である。同様式は、全国でも37件しか確認されていないもので、天皇の行幸を迎える際などに建てられたものが多く、来客用の洋館と居住用の和館を明確に分ける構造である。奥山家住宅は福島県で唯一の事例となり、同様式の完成形となる建築で、洋館・和館ともに迎賓施設としてつくられた特徴を持つ貴重な建築である。奥山家は、伊達地方有数の豪商として繁栄し、本建物の施主である3代目左衛門は、県会議員や藤田町長などを務め、JR藤田駅や銀行の誘致などこの地域の近代化に大きく貢献した名望家である。

— Activity Report —

Vol. 57

## 地域おこし協力隊活動日記



わたなべ かりん 渡邊 夏鈴

### 農家さんと収穫体験やマルシェを実施！

こんにちは！地域おこし協力隊2年目の渡邊夏鈴です。国見町で「クニミノマド」という屋号で、桃とりんごの木オーナー制度に携わり、関係人口の創出に取り組んでいます。また、単発企画として、あんずや野菜の収穫体験も実施しています。

9月14日、15日に開催された「盆地と里の芸術祭」では、町内の農家さんと協力して果物や野菜を販売しました。お立ち寄りいただいた方、ありがとうございました。

現在はインスタグラムでイベント情報や国見町の日常を発信しています。イベントは町内の方も大歓迎です！ぜひフォローしてチェックしてみてください！



▲あんずの収穫体験に参加された皆さん



昔、相馬の平将門が乱を起したところのことです。朝廷は、武勇の誉れ高い俵藤太秀郷を大将に任じ、東国へ向かわせました。ところが、将門は並みの人間ではなく、身長が2メートルあり、矢でも石でも傷つかぬ鉄身で、おまけに7つに分身でき、どれが本物か見分けがつかなかったそうです。さあ、困ってしまった俵藤太は、将門の側女「桔梗の前」に近づきました。そうとは知らぬ彼女は、俵藤太の容姿と甘い言葉に心奪われ、「7人の中で『こめかみ』が動くのが本物」と耳打ちし

てしまいました。そして、俵藤太は、首尾よく将門を討ち取り、乱を平定したのでした。さて、その後、何の音沙汰もない俵藤太を「桔梗の前」は恨み、憎み、あちこちさまよい歩くうち、藤太と同じ読み藤田・滝川のほとりまで来たとき、ふと水鏡に写った自分の顔が恐ろしい鬼女の顔になっていくのを知ったのです。もはやこれまでと、彼女は川に身を投げました。すると、見る間に体がぐねぐねと伸び、大蛇に変身し、山深い上流へ上っていったそうです。



【水鏡蛇に変身さきょうの前】

国見の民話  
かるた

【第二十八回】  
大蛇になった女